



[講演]

ロシアにおける日本語教育事情および日本留学の動向と課題

モスクワ市 1471 番学校教頭
コスチコワ・アンナ 氏

○丸山 それでは、次のご登壇者をご紹介します。次はロシアからのご登壇者で、コスチコワ・アンナ先生でいらっしゃいます。コスチコワ・アンナ先生とは私は本当に今回初めてお会いするんですけども、モスクワの高校で教鞭をとっていらっしゃるということに加えて、国際交流基金の活動を通してロシア全国の教師のネットワークを経験していらっしゃる、また、高校で教頭先生もお務めでいらっしゃる、日本語教育を超えた、また別の観点をお持ちでいらっしゃる先生でいらっしゃいます。どうぞよろしくお願いいたします。

○アンナ 本日は発表の機会をいただき、本当に、まことにありがとうございます。

まずは自己紹介をさせていただきたいと思います。アンナ・コスチコワと申します。10年間、外国語の教師の仕事をしていて、その中で8年間は日本語の教師として勤めています。専門は日本語教育ですけども、日本語はロシアの大学で勉強していました。皆さんにロシアの教育制度などについて説明したいと思います。よろしくお願いいたします。【スライド④-1】

まず、本日使う「学校」という用語の説明をします。一般的にロシアの学校は小中高教育機関で4、5、2年制の11年制をとる小中高一貫校です。私の発表で「学校」という言葉を使いますが、小中高一貫校という意味で使います。【スライド④-2】

それでは、シンポジウムのテーマである国における日本語教育事情および日本留学の動向等課題についてお話ししますが、発表は以下の3つの部分に分けたいと思います。

まず、ロシアでの日本語教育の歴史について述べ、次に、採用されている教育制度について説明し、最後に、現在の語学教育の動向に触れたいと思います。【スライド④-3、4】

大学における日本語教育は、65年以上前に始まります。1949年に、1つしかありませんが、50、60年代までに4つまで増えて、80年代に5つの大学になりました。国際交流基金が2014年に行った調査結果によると、43の大学で日本語が教えられています。その中で6%は私立大学です。全ての大学が情報を提出したわけではないので、おそらくこの数値は不正確です。しかし、過去の30年間に日本語学習者の数がどのように変化したかを観察することができます。

【スライド④-5】

学校の日本語教育はそれより遅く始まって、最近の15年間ぐらいの歴史だと言えるでしょう。日本語は10年前から積極的に教えられているということです。現在、義務教育として日本語を勉強している学生数は減っていますが、選択科目として日本語を勉強する学生数は増えています。

これには3つの理由が考えられます。第一の理由は、基礎科目の州が増えたため、学校が日本語だけでなく、全ての第二外国語を時間割に載せることができなくなったことです。第二の理由は、特に学校のためにロシアで出版された日本語教科書や教材が欠如や不統一だということです。各教師は自分の教育法に従って教材を個別に選択しながら教えています。それで、同じ学年の学生と同じレベルを達成していると言いがたいです。3つの理由は、大学の入学試験として日本語がないことで、高校生は進学に必要な科目を勉強することに重点が置かれていて、大多数の学生は日本語を学ぶ意欲を失ってしまいます。【スライド④-6】

これは一般的な日本語教科書です。【スライド④-7】

ロシア全国で126教育機関で、480人の教師が日本語を教えています。日本を勉強している生徒の人数は8,650人で、世界での日本語学習者数としてロシアは第24位になりました。それに、8,000人の中で2,355人は中等生です。【スライド④-8】

ある学校を例にして、ロシアの教育制度をもっと詳しく見てみましょう。【スライド④-9】ロシアでは新学期は5月に始まり5月に終わります。7歳から18歳までの男女の生徒が通っています。1年生から11年生までの教育は無料です。全ての教科書も学校によって提供されています。授業は1コマ45分で、

1日に4コマ、7コマの授業があります。授業は日本語学校と同じように、数学、理科、国語、いろいろありますが、学校で勉強している科目の中には、原則として外国語なら英語ですが、第二外国語は全ての学校で提供されているわけではないです。あるなら、5年生から始まります。2年生から始まるのは少ないです。7コマ目が終わったら、学校内でクラブ活動に参加します。スポーツのクラスや音楽、手芸、また日本文化に関するクラブもあります。クラブが終わって、4時から5時に帰宅します。9年生と11年生は、学年末に国家試験を受けます。【スライド④-10】

試験のテキストは文部省によって作成されていて、試験が始まるまで、その内容は機密になっています。試験にはテストと作文の部分もあります。英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、そして、ことしから中国語も受けられるし、筆記試験だけでなく、口頭試験を含みます。9年生の試験の数は4つですが、11年生は少なくとも3つを選ばなければなりません。【スライド④-11】試験を終えて6月から8月の3カ月は夏休みですが、遊んでばかりはいられません。多くの生徒はサマーキャンプなど勉強を続けます。ロシアでは共働き世帯が多いので、学校が休みの間はサマーキャンプなどに子どもを預けることが広く行われています。【スライド④-12】

先ほど説明したとおり、日本語の授業では外国人向きの教科書に基づき、漢字、文法、会話などの学習を行っていますが、時には教材としてアニメを使用したり、生け花、茶道とか書道を取り入れたり、生徒に日本語の歴史や都道府県を紹介するプレゼンテーションをさせたり、ロールプレイを行ったりというように、教師は生徒たちが日本語学習や日本文化により多くの興味を持つように工夫をしながら授業を行うよう心がけています。【スライド④-13】

ある学校では、日露関係の生徒の交流プログラムを行っています。そのプログラムのときにホームステイをする機会があります。生徒が交流し、お互いの国の文化伝統に触れ合う機会を設けています。プログラム参加の中には、帰国後も連絡を取り合い、家族ぐるみでお互いの国を行き来するような例も少なからずあるそうです。【スライド④-14】

地方によって違いますが、日本文化関係の活動とか日本語弁論大会のイベントも行われています。その機会には、日本語の教師たちはプロを招いて茶道とか華道などの伝統的な文化講習会を開いたり、子どもたちは歌や踊りによる大きなコ



ンサートを開催したりしています。

先生方のおかげでこのような環境の中、生徒たちは日本文化に対して高い関心を持ち、日本の漫画、アニメ、ドラマ、伝統文化など、さまざまな分野に興味を持っています。最近では、ロシア語に翻訳された漫画などを書店で購入できます。【スライド④-15】

経験的に、卒業生のうち大学などで日本語の学習を続けるのは6割程度ですが、自分で勉強を続けたり、一度は日本語からちょっと離れても、無意識に再び日本語の勉強を始める生徒も多くいるようです。【スライド④-16】

しかし、最も重要な問題とは、ロシア人の学生は日本の大学に入りたい気持ちがあるか、興味を持っているかということでしょう。【スライド④-17】

日本へ旅行に行きたいと思う学生はほぼ100%ですが、勉強するのは別の話です。なぜかという、留学の費用の問題があるからです。経済的にロシアはまだそんなに発達していない国ですから、特に首都からでなく地方から来る生徒はこういう問題があります。もう1つの理由は、学校が終わってすぐ日本の大学に入るのは無理です。ロシアの場合は大学の入学までの教育期間が11年間ですが、日本のは12年間ですね。1年間足りません。だから、最初はロシアの大学の試験に合格して、5月入学すれば、半年間待って翌年の4月に日本の大学の入学試験を受けなければならないです¹⁾。3番目は、自由に講義やゼミを理解するのに日本語のレベルは足りないということです。普通は、いい成績を持つ生徒は、日本語能力試験のN4までしか出しません。それで、まず日本語学校で短期プログラムが準備教育課程を受ければ良いと思います。それに、主な問題ではないですが、ロシア語には漢字がありませんから、中国人と韓国人と比べれば、苦手だと思います。もしロシア人は日本の大学に入ると、プラス漢字コースが必要かもしれません。【スライド④-18】

最近、まだ学校が終わっていない子も日本語学校の短期コースに入る子がいるのを知っていますが、そのフィールドはまだ始まったばかりです。私はこれをサポートする会社を3社していますが、直接情報、資料を送る方法もあります。

また、日本大使館の奨学金のプログラムがありますが、その奨学金をもらう学生の人数は非常に少ないです。でも、毎年受け取ってみるチャンスがあるそうです。**【スライド④-19】**

では、留学生は大学のどんな学部に入りたいですか。こちらのスライドにある分野は人気が高い分野です。日本語教育、東洋学、政治学、美術、通訳ガイドの仕事などです。そして、まだロシアには日本語に関係がない専門ですが、よく選ばれているのは技術や医学です。この分野は日本ですごく発達していますから、留学の目的として選ばれるケースがあるようです。**【スライド④-20】**

結論として、こちらのスライドにある3つのパターンであれば、留学までたどり着くと思います。

最後に、ロシアの先生が学生のニーズをよく理解して支援し、学生の留学へのモチベーションを高めれば結果が出ると思います。**【スライド④-21】**

ご清聴ありがとうございます。**【スライド④-22】**

○丸山 アンナ先生、どうもありがとうございました。

- 1) 2019年1月31日、「高等学校に対応する外国の学校の課程のうち当該課程を修了した者が大学入学に関し高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められるものを指定する件の一部を改正する件」(平成31年文部科学省告示第11号)が公布され、ロシアについては11年制であっても日本の大学入学資格が認められた。

【スライド④-1】

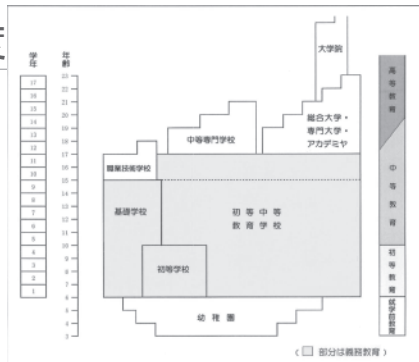
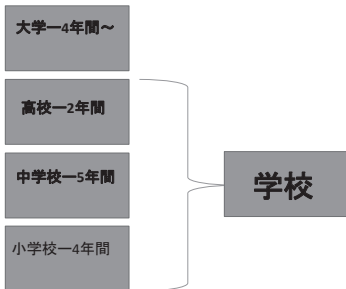
ロシアにおける日本語教育事情 及び日本留学の動向と課題

アンナ・コスチコヴァ
(ロシア)モスクワ国立学校1471番

立教大学日本語教育センター
国際シンポジウム
2018年1月26日

【スライド④-2】

ロシアの教育制度



【スライド④-3】

本発表内容

1. 日本語教育の歴史
2. 教育制度
3. 現在の語学教育の動向

【スライド④-4】

① 日本語教育の歴史 (大学・学校)

【スライド④-5】

大学における日本語教育

1949年—1校

1950—60年代 —4校

1980年代～5校

2014年現在 —43校（36校 —国立大学・7校 —私立大学）

【スライド④-6】

学校における日本語教育

15年間ぐらいの歴史

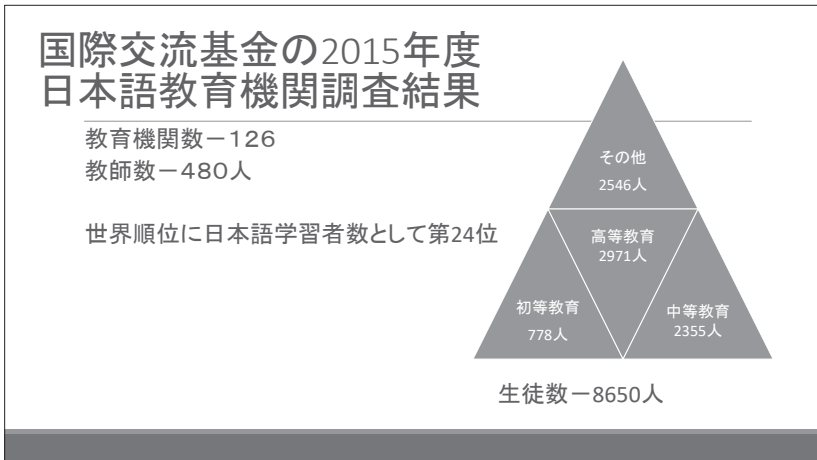


- ❖カリキュラム別々
- ❖必修科目(国語や数学)が多い
- ❖日本語の国家試験がない

【スライド④-7】



【スライド④-8】



【スライド④-9】

② 教育制度

【スライド④-10】

ある学校の例

- ❖ 学年暦(新学年ー9月、学年末ー5月)
- ❖ 11年生
- ❖ 学費無料
- ❖ 授業(1コマー45分)
- ❖ 1日ー4～7コマ
- ❖ 9年生と11年生の国家試験
- ❖ 夏休みー3か月

【スライド④-11】

国家試験		
必修科目	選択科目	外国語
<ul style="list-style-type: none">• 国語• 数学	<ul style="list-style-type: none">• IT• 地理• 生物• 物理• 理科• 社会• 歴史• 文学	<ul style="list-style-type: none">• 英語• ドイツ語• フランス語• スペイン語• 中国語 • <u>日本語がない</u>

【スライド④-12】

ある学校の例
<ul style="list-style-type: none">❖ 学年暦(新学年ー9月、学年末ー5月)❖ 11年生❖ 学費無料❖ 授業(1コマー45分)❖ 1日ー4~7コマ❖ 9年生と11年生の国家試験❖ 夏休みー3か月

【スライド④-13】

日本語の授業

- ❖ 日本文化
- ❖ 日本語学習
- ❖ 交流プログラム
- ❖ 日本語能力試験の課題練習
- ❖ 日本の歴史
- ❖ 行事(文化祭、日本語弁論大会)
- ❖ 日常会話が少ない

学習者(人)					
中等教育					
中等教育合計			わかれていない		
正規科目	課外活動	合計	正規科目	課外活動	合計
2,061	294	2,355	886	84	970

学習者(人)					
中等教育					
前期中等教育			後期中等教育		
(10-11年生)					
正規科目	課外活動	合計	正規科目	課外活動	合計
1,037	170	1,207	138	40	178

【スライド④-14】

日本語授業の内容



和食を作る



日本人の学生と交流する



日本人の先生と会話する



日本旅行をする

【スライド④-15】

日本語授業の内容



スポーツ体験



日本語弁論大会



部活をする



ホームステイのご家族



【スライド④-16】

高校の日本語学習の継続



中央連邦管区	376
北西連邦管区	382
南部連邦管区	-
沿ヴォルガ連邦管区	54
ウラル連邦管区	-
シベリア連邦管区	125
北カフカース連邦管区	-
極東連邦管区	2236
合計	3173人

【スライド④-17】

③

現在の語学教育の動向

【スライド④-18】

留学の動向

1. 経済的な問題
2. 学年暦の問題
3. 日本語力の問題
4. 漢字の問題
5. 日本留学への希望

【スライド④-19】

現在留学している学生の状況

- ❖ 日本大使館の奨学金
- ❖ 日本語学校にある短期・長期コース
- ❖ 大学の交流プログラム

【スライド④-20】

日本留学への志向

- ❖ 日本語教育
- ❖ 東洋学
- ❖ 政治学
- ❖ 美術
- ❖ 通訳・ガイドの仕事
- ❖ 技術
- ❖ 医学

【スライド④-21】



【スライド④-22】

**ご清聴
ありがとうございました。**

立教大学日本語教育センター
国際シンポジウム
2018年1月26日